

ヒノキ植林 安く手軽に

県森林研究所は二十二日、低コストで植えられるヒノキのコンテナ苗を開発したと発表した。根と培養土が絡む「根鉢」の部分を短くし、植える時の手間を軽減させるアイデア。木材の価格低下に伴い、伐採後の再造林の動きが停滞する課題を抱える県は「全国に先駆けた成果。百年先の森林づくりに役立てたい」と実用化を急ぐ。

(鈴木智行)

県内は傾斜が大きく水分を含みにくい地形が多く、他地域よりヒノキに適した土地の割合が高いが、造林面積は年々減少。植栽から四十年前後

の林が四万枚余りあるのに対し、十一年の林は数千枚にとどまる。鉢のような容器で育てるコンテナ苗の手法は、傾斜地に植える際に、深



④県森林研究所が開発した根鉢が短いコンテナ苗(右)。真ん中は従来のコンテナ苗。左は裸苗＝県庁でヒノキの植林作業。急な傾斜地で深い穴を掘って苗を植えるのは、負担が大きかった＝下呂市金山町で(県森林研究所提供)



県森林研究所 短いコンテナ苗開発

い穴を掘らなければならず、手間がかかっていた。同研究所はまず、ヒノキの根鉢を短く切って植えてみたが、うまく根付かなかった。そこで、コンテナ苗の鉢の部分を浅くし、当初から根鉢を五センチ短くした苗を育てて山に植えてみると、通常の十五センチの苗とほぼ同じように育つことが分かった。植えるために穴を掘る時間は半分近くで済み、人件費を含めた苗木本当たりの費用は、十五センチの苗の三分の一程度に抑えられる。

ただ、地中深くまで根を張るスギには、この技術を転用するのは難しいという。担当者は「岐阜県の実情に適した技術。三年後には、このヒノキを県内の山に植えられるようにしたい」と意気込んでいる。

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限：平成31年3月8日

この記事は中日新聞社の許可を受けて掲載しています。